

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
高等学校	和歌山県立熊野高等学校	夏目 康弘
学校所在地		
〒649-2195 tel 0739(47)1004 fax 0739(47)4200		
担当者名		担当教科
田城賢司／酒井久視／宮地良斉／中谷隆太		地歴公民科
<p>〔学校の概要〕</p> <p>本校は和歌山県の中央部、田辺市・白浜町に隣接する上富田町に位置する。古くは“口熊野”とも呼ばれ、古道が本格的な山道〔中辺路〕に臨むところでもある。町内の八上王子・稲葉根王子は世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」に追加登録され、改めてその価値を再認識している。</p> <p>本校は林業学校を前身とし、現在、看護科・総合学科の2科が設置されている。</p> <p>純朴でどの子もよくあいさつをし、部活動に積極的である。</p> <p>また、町内唯一の高校であることから、隣接の上富田中学校とは授業参観交流(教員)や部活交流を行い、上富田町とは学校クラブ サポーターズリーダーを中心に、イベントへのボランティア参加や合同防災訓練、地域の高齢者への声かけ等を行っており、地域との関わりが深い学校である。</p> <p>なお、1学年では平成16年以来、学年の学習として熊野古道ウォークを実施している。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等(延人数)	主な活動場所
学年2・3年生 41名	1名 職員 4名	本校会議室
実践研究テーマ		
世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化		
実践教科等名	単元名	
社会文化研究(地歴公民科)	地域の歴史文化	
〔キーワード〕 世界遺産 熊野古道 情報発信 地域 上富田 観光		
<p>〔単元目標〕</p> <p>(1)世界遺産が設けられた経緯や意義、世界・国内の遺産の状況など基本的な事項について理解する。</p> <p>(2)「紀伊山地の霊場と参詣道」に関する基本的な知識について学ぶとともに、世界遺産としての熊野古道がどのような価値を持つものなのかを理解する。</p> <p>(3)(1)(2)での理解を踏まえ、現地学習を通して熊野古道の魅力を体験的に学び、高校生視点からその魅力や価値、保全のあり方について考える。</p> <p>(4)フォトエッセイ作成を通して、これまでの学習や体験で得たことを情報発信する立場からまとめる。</p>		
〔学習に当たった全学習時間数(世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名/教材名)〕		
全体 50 時間 (「世界遺産・熊野古道と地域の歴史・文化」 8 時間)		
<p>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</p> <p>和歌山県世界遺産センター 世界遺産連続講座 講師 熊野古道フィールドワーク 講師・ガイド</p>		

実践に関する事項

〔単元指導計画概要〕

	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	世界遺産入門連続講座① 和歌山県世界遺産センター職員の方による講義とワークを通して、世界遺産とは何か・日本の世界遺産について、学習した。	ワーク時における巡回指導を行うとともに、活発な学習を促す。	〔関心・意欲〕 グループワークへの参加・ワークシート 〔知識・理解〕 ワークシート
2	連続講座世界遺産入門② 紀伊山地の霊場と参詣道(1) (2) 世界遺産講義とワークショップを通して、「紀伊山地の霊場と参詣道」について、基本的な知識〔ルートや王子とは何か等〕や「文化的景観とは何か」について学習する。		
3			
4	熊野古道フィールドワーク	高校生自身が感じる熊野古道の魅力をテーマに、和歌山県世界遺産センター職員の方々のガイドのもと滝尻王子から高原熊野神社までを歩く。 今回は熊野古道フォトエッセイ作成のため、各自デジタルカメラを持ち、古道の魅力とを感じるシーンを撮影する。	〔関心・意欲〕 〔思考・判断〕 観光からみた熊野古道の魅力を感じ、その発信のための情報を収集する。
5	熊野古道フォトエッセイ作製	フィールドワークでの写真とインターネットでの調べ学習をもとに、生徒自身が感じた古道の魅力を発信するためのフォトエッセイを作製する。	〔技能・表現〕 作製したフォトエッセイ
6	古道パンフレット発表会	前時に作製したフォトエッセイの発表を行う。	〔知識・理解〕 〔思考・判断〕 〔技能・表現〕 パンフレット発表

〔単元学習の成果と課題〕

本単元は、年間の主要な学習主題の1つである。講義とフィールドワークをセットで実施することで、世界遺産の意義から熊野古道が世界遺産としてどのような価値を持つのかを知識と体験から学ぶことができた。知識については、定期考査とリンクさせることで定着をはかった。学習のまとめとして、フォトエッセイづくりを行った。フィールドワークは学んだ知識を確かめる機会であると同時に、カメラを使うことで、生徒自身や他の生徒が古道をどのような感性で捉えたのかをダイレクトに確かめることができる。

時数の関係で実現できていないが、互いに感じた古道の魅力を別の形でまとめ、さらに今後の古道がどのようにあるべきか、自身がかかわるとすればどのようなことなのか？このような観点からのワークを行い、深める必要がある。

〔世界遺産学習の効果〕

世界遺産講座を通して、世界遺産としての熊野古道の価値を学ぶことができているので、単に自然豊かな山道という理解からは脱却できている。また、外国からの観光客が多いことを学ぶことで、日本、紀伊半島の文化について、改めて見直すことができる貴重な機会となっている。

〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕

入門講座やフィールドワーク後の授業でも扱っているが、古道は守り伝えるもので、少なからず生徒自身も主体的に関わることができるものであることを、語り部や道普請の取り組みをより具体的に考えるワークを充実させたい。

また、上富田町内の八上王子・稲葉根王子が世界遺産に追加登録されていることから、町や地域の取り組みを含め、学習教材として取り上げたい。

様式 2

平成 29 年度 次世代育成事業における学習記録

[概要報告書 学習記録・活動写真]

熊野古道フィールドワーク[平成 29 年 12 月 12 日(火)実施]

2・3年生 39 名が参加した。滝尻王子～高原熊野神社を歩く。ポイントでガイドの先生からの説明を聴くとともに、フォトエッセイ作成のため、各自が魅力に感じた風景を撮影しながら、フィールドワークを行った。

《日程》

13:20 滝尻王子
15:30 熊野高原神社

熊野古道フォトエッセイ作品例

各自が写真を取り、パンフレットづくりを行った。パンフと言いながら、エッセイ風の仕上がりとなっている。古道に関する情報は 200 字程度におさえ、写真の説明や感じたことを中心に記述している。

熊野古道歩いて



写真は、滝尻王子を出発して、数十分ほど歩いたところ
です。気温が低かったこともあり、空気がピンと張り
つめていて、ところどころに雪が積もっていました。

急な登り坂や、階段のようになった道をたくさん歩いて
来ていたので、この空気の冷たさがとても気持ちよく、
清々しく感じました。

多くの木々が空を覆うように葉を広げているため、天
気のいい日でも少し薄暗く感じると思います。しかし、
木々の間からさす木漏れ日が、熊野古道の厳粛な雰囲気
をよりいっそう際立たせています。

周りがとても静かなため、鳥の鳴き声や風の音が大き
く感じました。

今回、私たちは滝尻王子から高原神社までの約 4 キロ
を歩きました。スタート地点となった滝尻王子は、富田
川と石船川が合流する地点にあります。熊野九十九王子
社のうち最も重要視された社格の高い五体王子社にも数
えられ、後鳥羽上皇の一行もこの社前で御歌会を催され
たと伝えられます。杉木立に囲まれた小さな社殿に往時
の姿が偲べれます。

滝尻王子からどんどん歩いていくと、「不寝王子」・「剣
ノ山経塚跡」・「胎内くぐり」・「乳岩」などがあります。
私は、熊野古道を歩いたのは 2 回目でした。1 回目より
かなり距離は短かったけど、歩き始めてすぐに急な登り
坂だったので、とてもしんどかったです。熊野古道のピン
と張りつめた空気や、静けさ、雰囲気などが気持ちよ
かったです。歩くのは大変だったけど楽しかったです。

熊野古道の歴史



12 月 12 日。私たちは、滝尻王子から高原熊野神社ま
で歩きました。熊野古道ならではの自然の景色を見るこ
とができて、とても貴重な経験ができたと思いました。

最初はアップダウンの激しい道のりが続き、歩くのは
辛かったですがゴールした時は達成感を感じることがで
きました。道中、不寝王子や胎内くぐりと言った歴史あ
るものを実際に見ることができたので歩いた価値があっ
たなと思いました。高原熊野神社に行く道の周辺で、民
家のある集落を見たときは自然の中を歩いている時とは
違って、ホッとした気持ちになりました。

この写真は、テレビ塔から少し歩いたところにある民
家が連なった風景です。

これを選んだ理由は熊野古道の中にある歴史を感じた
からです。また純粹に景色がきれいだったからです。他
にも歴史ある神社や王子もありましたが、この景色が一
番心に残っています。熊野古道の魅力は、自然豊かな景
色や歴史あふれる古道だけではなく人の手が加わった景
色も魅力の一つだと思います。人の手が加わっていると
言っても、自然の割合の方が多かったです。民家と自然
が一体となった景色は、言葉に表せないほど美しく心に
残るものがありました。生憎この日は、天気があまり良
くなかったので太陽の光が当たった自然の景色を見るこ
とが出来ませんでした。それでもなかなかインパクト
のある景色だったと思いました。また歩くことが出来た
なら、次はゆっくりと自然を楽しみたいです。